

戦 評 用 紙

平成26年度 学校総合体育大会 兼 全国高等学校総合体育大会 バスケットボール競技大会 埼玉県予選

会 場 和光市総合体育館
対 戦 Kコート 第1試合 女子

平成 26年 6月21日

ふじみ野高校	50	$\left. \begin{array}{l} 18 - 28 \\ 12 - 34 \\ 12 - 27 \\ 8 - 27 \end{array} \right\}$	116	山村学園高校
--------	----	--	-----	--------

決勝リーグ第1戦正智深谷との接戦を制し1勝をあげた山村と埼玉栄に大きく差をつけられ1敗を喫したふじみ野の対戦となった。双方マンツーマンでスタート。立ち上がりふじみ野#6が速攻からのレイアップ、さらにはジャンプシュートを連続して決め上々の滑り出しを見せる。対する山村#5のドライブイン、ジャンプシュート、#9、#10がインサイドでファールをものともせずシュートを沈め、ボーナススローも確実に決める。ふじみ野#4も負けじと連続してジャンプシュートを決め応戦する。残り1分ふじみ野歯車がかみ合わずターンオーバーを連発。山村にイージーシュートを許してしまう。第1ピリオド終了、ふじみ野18-28山村。

第2ピリオドがスタートするやいなや山村の猛攻が始まる。ベンチスタートの#13のドライブインを皮切りに7点連続奪取。17点のリードを奪われたところでふじみ野タイムアウト。直後のふじみ野#10がジャンプシュートを決めるも、山村のきびしいディフェンスを攻めあぐみ、インサイドのコンビネーションプレーも先読みされてしまいペースは山村に。その差が21点となったところでふじみ野ピリオド2回目のタイムアウト。ディフェンスを1-2-2のハーフコートゾーンにスイッチし反撃を試みる。しかしながら山村の勢いはとどまるどころを知らず#5のオールラウンドでの活躍がきわだち、ふじみ野を引き離しにかかる。第2ピリオド終了、ふじみ野30-62山村。

第3ピリオド山村メンバーを大幅に入れ替える。長身の#13がオフェンスリバウンドからのゴール下を連続してねじ込みその差を拡げていく。山村さらに#4、#5をコートに呼び戻し磐石の布陣。ゲームを優位に進める。対するふじみ野、山村のプレスディフェンスに苦しみながらも#4、#10がシュートをよく決める。しかしながらいずれも単発で終わってしまい、なかなか得点差は縮まらない。第3ピリオド終了、ふじみ野42-89山村。

第4ピリオド開始早々山村#16がよく前を走りレイアップシュートを連続して決める。ふじみ野#10がインサイドで果敢にゴールをねらうも得点には至らない。残り5分でふじみ野タイムアウト。形勢逆転をねらうがその後も山村の5人がコート狭しと縦横無尽に走り回り、#10の3連続シュート、#18の3P等でゲームを支配する。山村がその機動力と選手層の厚さを見せつけた1戦であった。試合終了、ふじみ野50-116山村。

もう一方のコートで行われていた埼玉栄-正智深谷戦では栄が正智を下し2勝目をあげ、この時点で山村の2年ぶり9回目のインターハイ全国大会出場が決定した。

(記録者:越谷北高校 永江健一)

